

# 東川町社会福祉協議会のお仕事紹介!

第6弾



## 今回のお仕事紹介は…『福祉用具貸し出し事業』です!

### Q.1 どんなサービスなの?

急な体調変化等によって福祉用具が必要となったときに、無料で貸し出しをするサービスです。

### Q.2 どんな時に借りられるの?

- ・足を怪我して車いすが必要になったとき
- ・介護保険の認定がつくまで福祉用具を借りたいとき
- ・旅行等の外出で一時的に使いたいとき
- ・病院からの一時外出(外泊)時に使いたいとき 等々



地域の集まりや  
親睦会に是非

### Q.3 どんな人が利用できるの?

必要な時は年齢を問わず、町民の方どなたでも利用することができます。

### Q.4 どんなものが借りられるの?

電動ベッド、車いす(子ども用あり)、シャワーチェア、手すり、歩行器等が借りられます。



ボッチャ、ストラックアウト、ボーリング、スカットボール等のレクリエーション用具もレンタルしています! チャイルドシートの貸し出しも行っています!

### Q.5 どのくらい借りられるの?

最大半年間借りることができます。

(ただし、介護保険でのレンタルが優先となります)

※ 貸し出しできるものに限りがありますので、緊急性を考慮して、ご相談の上返却期間を設定いたします。

## — 困った時に誰もが「助けて」と言える町に — 第17回

### 「夜霧の舟人」

それは突然の電話だった。相手は東京K市の包括支援センター「お兄さんの事で・・・」と。私には一歳の時に別れた兄がいる。再会したのは私が高校生の時だった。東京から北海道に登山で訪れていた兄に親類が私と会うよう勧めたらしい。再会といっても私にとって初めて見る兄は穏やかな印象だった。その後、来道の際は私の所に立寄るようになった。会うのは何年かに一度だったが、その都度聞く生みの両親の話は私のルーツを再確認させてくれた。登山や囲碁、文学等多趣味な兄だったが、両親の遺骨はどこにあるのかと聞くと「知らない」と答えた。人の死については無頓着のようだった。後に私が両親の遺骨を探し当て、寺に納める段取りを伝えても兄から大きな反応はなかった。そんな兄だが、一度助けられたことがある。息子が東京の大学受験の時は家に泊めてもらい、山手線の乗り方を教わったことだった。

支援センターによるとー80歳の兄は物忘れが始まり財布を度々紛失、時には生活にも困るようだと。誰れか身寄りはいないかと聞いたら私の名が出たので連絡させてもらった。お金の管理ができなくなったので後見人が必要となるであろうから、K市の相談課からも連絡がいくので了解して欲しいーとのことだった。後にK市から成年後見制度利用の意向確認書が届いた。文書は「私は本人の妹にあたります」という一文から始まり、最後には私の署名欄があった。両親亡き後、兄は中学を終え上京。後に北海道からもうひとりの妹(私の姉)を東京に呼び寄せたと聞いていたが、なぜ私の名が出たのかと複雑な気持ちになった。

先日、アルツハイマーと診断された兄は、例えると夜霧の海を漂う舟人なのかも知れない。ならば私は灯台のひとつになるしかない。そんな覚悟で署名欄にサインしたのだった。